

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 29 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K02858

研究課題名(和文) 大学生向けウェブサイト版「包括的性の健康」学習支援ツールの開発と評価

研究課題名(英文) Development and evaluation of a website version of the "Comprehensive Sexual Health" learning support tool for college students.

研究代表者

山崎 明美 (Yamazaki, Akemi)

信州大学・医学部・特任講師

研究者番号：60299881

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では「包括的性の健康ポータルサイト」(以下、HP)(<https://y-sh.org/>)を製作し、学生へのアンケート調査による評価を実施した。本研究で製作したHPはスウェーデンの若者の性をサポートするサイトUmoをモデルとし、こころとからだ・生き方・生活・性を包括する「性の健康」情報のポータルサイトを目標とした。

【HP評価調査】対象：医学部保健学科210名、回収率：16.7%、「HPの満足度」：満足69.7%、不満24.2%、「大学生に必要な内容か」：とても必要42.2%、必要57.6%、「閲覧機器」：スマホ69.7%、ノートPC27.3%。今後は地域でのHP活用を充足させる予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで「性教育」に関する公的なサイトでは、「性教育」する内容を掲載するものがほとんどであり、性に関するテーマごとに、専門サイトがある状況が多くあると捉えられた。加えて、若い世代や性教育に関する大人が、適切な情報がどこにあるので、何が適切な情報なのか判断することが難しい場合があった。これらに対し、若い世代の性やくらし、生き方にも関わる情報ポータルサイトは有益であると考え。

さらに、知らないことはスマホでネットという世代への「性教育」の在り方として、従来型の知識教育に重点がある教育から、限られた性教育に使える時間で、反転教育手法+性を考える参加型教育に移行する提案および一助になると考える。

研究成果の概要(英文)：In this study, we created a "comprehensive sexual health portal site" (hereinafter referred to as HP) (<https://y-sh.org/>) and evaluated it through a questionnaire survey of students. The HP produced in this study was modeled after Umo, a Swedish site that supports the sexuality of young people, and aimed to be a portal site for information on "sexual health" that encompasses mind and body, way of life, life, and sex. 【HP evaluation survey】 Target: 220 people from the Department of Health Sciences, Faculty of Medicine; Collection rate: 15%; "Satisfaction with the HP": 69.7% satisfied, 24.2% dissatisfied; "Is the content necessary for university students": 42.2% very necessary, 57.6% necessary; "Browsing devices": 69.7% for smartphones, 27.3% for laptops. In the future, we plan to fulfill the use of HP in the community.

研究分野：健康学習支援

キーワード：性の健康 性教育 包括的性の健康 性教育の方法 性の情報

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、大学生が抱える多様化した問題に対し、人間関係に主軸を置いた「生活支援」と「包括的性の健康」の観点から、当事者参加および地域連携を軸として、当事者参加型ウェブサイト構築し、効果の評価を目指したものである。この背景は次の通りである。

まず、現代の大学生の傾向と大学生支援における性の事象がある。現代の大学生が抱える課題は多様化し、なかでも対人関係は筆頭にあがり、他者とのつながりの希薄化、コミュニケーションの未熟さ、周りの人間の反応を非常に気にする、自己効力感や自尊心の低さ、表面上は笑顔や平静に見えても内心は深刻といった傾向が報告され、心の悩みや学業・人間的基盤の揺らぎになっている。

これらに加え、表面化しにくい学生の抱える問題として性に関する事象がある。性的ハラスメント、恋愛、ドメスティック・バイオレンス(DV)、性的指向に関する相談がある。表面化していないだけで、困ったり悩んでいた学生が存在することが指摘されているが、学生に紹介できる現実的かつ包括的な性の健康支援のオンライン・サイトはほぼ見当たらなかった。

『義務教育諸学校における性教育の実態調査』(2005年、文部科学省)等々では、性教育の内容や時間数、性教育担当者の不足などの課題が指摘されている。義務教育以降の「性教育」では、生殖や性行動が中心となる傾向が強く、断片的な知識の理解のままになりがちである。

さらに、大学は現在、大学改革と大学生支援の充実化という、2つの両立を求められている。しかし、担い手である教員は大学改革の流れの中で、広範かつ多様な大学生支援の領域において、多様な背景や資質の大学生に対する支援のための活動範囲や量が拡大し、負担が増している。特に、「性の健康」に関する相談対応は、多くの教職員にとって、対応の困難性や困惑を伴い、性的個別性のある学生や問題を抱える学生などへの個別支援も十分とは言えない状況である。

このような状況を内包し、実施した本学学生への「性の健康」に関する調査(挑戦的萌芽研究、平成26-28年度)から次の傾向が確認され、これらは既存の他調査結果と同様である。

高校で学んだ内容も再度学びたい：望まない妊娠や性感染症予防、妊娠、性的指向

学生の今学びたい項目(有効回答中約7割が希望)：緊急避妊、予防接種、医療機関情報、結婚生活、結婚・出産に関わる保健医療サービス、性行動とライフ/キャリア・プラン

「包括的性の健康」学習の方法への希望：専門家から学びたい、大学の授業で、WEB上で、相談できる場所は大学外で 反映した分散型プログラム案作成

本研究者は、スウェーデンで、行政主導による当事者参加型かつ当事者親和性が高く、結果、よく活用されている性に関するインターネットサイトの構築の経緯を聞き取り調査した。この知見もふまえ、自己効力感保持や自己肯定・対人関係スキル・性に関連する事象・身体のしくみと健康管理の基本知識と情報提供を中心にした「包括的性の健康」ウェブサイト構築し、大学生にHP評価調査を実施することとした。

### 【本研究で考える『包括的性の健康』】

表1)「包括的性の健康」および学習支援プログラムのカテゴリー案

自己効力感、人間関係	セクシュアリティ	性行動	倫理	性の裏側	有益な価値の明確化	さらに深い学習
恋愛および性的な関係を結ぶ相手との良好な人間関係のためのコミュニケーションスキル:ネゴシエーション、アンガーマネジメント、メディエーションなど、自己効力感や尊厳	セクシュアリティ:性・性別・性的指向、性的障害等、性行為、生殖器の健康	行為に関わる予防接種および癌や病気の予防、予防接種や感染症予防を含む妊娠・出産に必要な健康管理、不妊症や不育症、妊娠・出産に伴うできごと	キャリアプランやライフプラン、医療に関する組織や社会資源の活用、性行動と法規定	性被害予防と対処、性を取り巻く事象(売買春、人身取引、女性性器切除等)、倫理とそれが及ばない事象	CLARIFICATION EXERCISES  自己への自信や自尊心、自己効力感を高める実践的なトレーニング、脳科学や認知療法を取り入れた研修など	性分化疾患や性同一性障害、異性愛者の恋愛における男女の違い(男女の行動傾向など)、LGBT等の恋愛、ポルノグラフィ、ペドフィリア(小児性愛者)、虐待全般(性的含)、DV
<b>体と心の健康：健康管理ー病気等の予防、保健医療福祉の知識他</b>						
包括的性の健康の項目(試案)：スウェーデン性教育協会、WHO、文科省等の資料を参考に試案作成						

## 2. 研究の目的

本研究は、大学生が抱える多様化した問題に対し、「生活支援」と「包括的性の健康」の観点から、当事者参加や人間関係および地域連携をも想定した、包括的性の健康の情報提供ポータルサイト型ウェブサイト(以下、HP)を構築すること、大学生へのオンライン調査によりHPを評価し、HPの改善点や活用の方向性等を明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

これまでに実施した性の健康に関する過去の調査結果や、海外現地調査の結果をふまえ、HPを構想していた。これを基盤にしつつ、さらに当事者性を高める方策を行い、HP制作およびHP評価を実施した。

### (1) 当事者性を反映した包括的性の健康の情報提供ポータルサイト型ウェブサイトの製作

1)HP対象世代への親和性や利用性を高めるための方策を複数回実施した。

研究チームが所属する大学における、性について考える学生サークル(性に関する学習等の活動グループ)の協力や募集した学生への複数回のグループインタビュー。

当事者世代のアイデア出しのワークショップやミーティングによる意見聴取。

ウェブ制作コーディネーター、WEBマーケティング専門家およびウェブデザイナー、ライターから成る製作チームでのHPの内容案の再検討。

### (2) HPの基盤仕様決定後の試験的閲覧およびプレ評価と修正

HPの基盤仕様が決定し、HPのラフ版の段階で、研究チームが所属する大学の学生サークル(前述)等10名程度がサイト閲覧した。半構造的調査票を基にした意見の聞き取りを行い、HPの仕様や内容の再検討を行った。

### (3) HPへの評価調査とHP修正

HPの試用版をリリースし、研究チームが所属する大学の学生約220名を対象に、オンラインによる自記式調査を実施した。評価項目はサイト内容の妥当性、当事者世代親和性、操作性等である。

## 4. 研究成果

### (1) HP制作前の学生意見聴取結果：学生へのワークショップやグループインタビューから

ワークショップでは、外部の30代男性ファシリテーターが事例を提示し、学生が自由な意見を出し合いディスカッションした。結果、学生の発言から導き出されたキーワードは、恋愛の距離感、恋人と友達の違い、交際相手とのコミュニケーション：気遣い・言いにくさ、好きとは何か、付き合うとは何か、恋愛や交際を話したい・聞きたい、しなくてよかった失敗例を聞きたい、中高生に伝えたいこと、言わない自由、安心・安全の場、LGBTQ、だった。これらのキーワードや逐語記録から、学生たちは知識学習以上に、他者と話すこと、他者の意見を聞くことによる自身の内政や考えの再確認・再構築を望んでいることが示唆された。

また、HPのタイトルやその意味付けを学生グループとブレインストーミングや検討のミーティングを実施し、学生たちが考えたタイトルと意味づけを決定した。

これらから、HPの項目や内容の項立てを、製作チームで再検討し仕様や内容を決定した。

## (2) HPの仕様とラフ版プレ評価

HPの仕様として、閲覧者が少ないクリック回数で、読みたい内容に到達できること、本HPで情報や知識をすべて提供するのではなく、「情報」を得ることができる在り処を提供する、を仕様と内容の基本方針としてラフ版を製作した。また、当事者の話やワークショップの様子に掲載、イラストを入れたQ&A、といったアイディアの反映は追加分とした。

ラフ版を学生10名程度にオンラインまたは実際に会い、ラフ版への自由な意見を聴取した。画面の見やすさと親しみやすさ：カラー、イラスト、写真、文字の読みやすさ、全体の印象など、操作性：知りたいことの探しやすさ、クリック回数、スマホでの操作等、項目構成について意見を得た。結果、サイトのデザインの微調整、TOPページに戻る仕様などの追加修正を行った。

最終的にHPの項目を『からだのこと：じぶんのからだ、女性のからだ、男性のからだ、からだに違和感があるとき』『自分のこと：自分のこと、自分の未来、自分を大切にすること』『コミュニケーション：人間関係とコミュニケーション、他者との距離感』『恋愛：幸せな恋愛をするために』『SEX』『メンタル』『酒/薬・暴力』『相談について』に決定した。

## (3) HPへの評価調査と修正、本リリース

研究グループが所属する大学の保健学科看護学専攻の2・3・4年生にWeb上自記式調査を実施した。(2019年末以降の感染症蔓延状況により)研究説明や調査協力の同意、調査結果回収のすべてをオンラインで実施した。対象者は210名、回収率は16.2%。メールで協力要請を行い、メールによる督促を行った。質問は10項目を選択式、4項目を自由記載とした。

『HPのトップページの印象』は「信頼できそう」「落ち着いている」、『HP閲覧の使用機器』は「スマホ」23名(67.7%)、「ノートPC」9名(26.5%)、『普段の検索の使用機器』は32名が「スマホ」94.1%だった。HPの操作性についての質問では、「スムーズだった」がほとんどだったが、いくつか提案・意見があり、修正に反映することにした。

内容については、『一番読んでみたいと思った項目』は「幸せな恋愛をするために」が8名、他は「メンタル」「人間関係とコミュニケーション」「自分のこと」「自分のからだに違和感があるとき」「じぶんを大事にすること」「自分のからだ」に分布し、他者との関係性や自分のことを知りたいという傾向が示唆された。『一番読みたかった内容への満足感』は「とても満足」「満足」で73%、「不満足」は読みたかった項目の記事掲載が未だのためだった。自由記載からは、未だ掲載できていないHP上での「双方向性」や「掲示板」「匿名相談」「就職や働くということについて」への希望があった。加えて、「学校で学ばないことを教えてくれる」「家族や他人

に聞けないことを選択肢を教えてくれる」「わかりやすい」「悩みとして抱えるであろうことの項目がたくさんあるので良い」「イラストが多くてよい」「HP 全体がイマドキのデザインで興味を持ちやすい」「サイト運営者が明記されていて安心できる」等々の様々な意見を得た。

これらの調査結果を経て、製作前に意図したことがおおよそ良い方向に評価されたと確認できた。仕様に関しては可能な限り、意見を HP に反映した。内容については、製作前の計画でも双方向性は重視していたが、結果として今後の課題とした。内容は記事掲載の補足と充実を図っていくこととした。

【製作した HP】<https://y-sh.org/>

LaClef ラクレ：心・体・性の情報ポータルサイト

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奥野 ひろみ  (OKUNO Hiromi)  (60305498)	信州大学・学術研究院保健学系・教授   (13601)	
研究分担者	五十嵐 久人  (IGARASHI Hisato)  (90381079)	信州大学・学術研究院保健学系・准教授   (13601)	
研究分担者	高橋 宏子  (TAKAHASHI Hiroko)  (80195859)	信州大学・学術研究院保健学系・准教授   (13601)	
研究分担者	石田 史織  (ISHIDA Shiori)  (20710065)	信州大学・学術研究院保健学系・講師   (13601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関